

# 最近の酪農情勢（メモ）

令和元年 11 月 20 日  
日本酪農政治連盟

## I 外交交渉

### 1. 日EU・EPA交渉

- 2017年6月：（自由民主党）日EU等経済協定対策本部の設置を決定した。本部長に西川公也氏、幹事長に森山裕氏、事務総長に吉川貴盛氏を選任した。尚、政府は7月上旬の大枠合意を目指すとの報道もなされている。
- 2017年7月6日：安倍総理はEUとの経済連携協定交渉が大枠合意したと発表した。酪農関連ではソフト系チーズなどについて、製品ベースで3.1万トン（16年目）の輸入枠を設定、枠内関税は16年目に撤廃。ハード系では関税（29.8%）を16年目に撤廃する。脱脂粉乳・バターについて、生乳換算で1.5万トン（6年目）の低関税輸入枠を設定する、などの内容となった。
- 2018年7月17日：安倍総理はドナルド・トラスク欧州理事会議長及びジャン＝クロード・ユンカー欧州委員会委員長との間で第25回日EU定期首脳協議及び少人数会合を実施し、日EU経済連携協定（EPA）及び戦略的パートナーシップ協定（SPA）に署名したと発表した。

### 2. TPP交渉関連

- 2017年5月：離脱した米国を除くTPP署名11か国は、21日、ベトナム・ハノイで閣僚会合を開催し、米国復帰の方策を含めてTPPの早期発効を迫るとの声明を採択した。
- 2017年11月11日：米国を除くTPP署名11か国は、新協定の大筋合意を発表した。焦点となった乳製品の低関税輸入枠の縮小など、農業分野の合意内容は見直さないうが、米国復帰が見込めない場合は、再協議できる新規定を設けた。
- 2018年1月：茂木敏充TPP担当相は閣議後の会見で、TPP11か国による新協定の早期署名へ、1月下旬に主席交渉官会合を開くことを表明した。しかし、カナダが消極的な態度を取っており、早期署名の実現は不透明な状況にある。
- 2018年3月：米国を除く環太平洋連携協定（TPP）参加国は8日、南米チリの首都サンチャゴで新協定「TPP11」に署名した。協定文が確定し、各国は国内の手続きを本格化させ、早期の発効を目指す。順調に進めば「2019年の早い時期」から「年内」に早まる可能性が出てきている。
- 2018年8月：日米両政府は9日新たな貿易協議（FFR）の初会合をワシントンで開催した。米国側は自由貿易協定（FTA）を念頭に2国間交渉を要求。日本側は環太平洋連携協定（TPP）復帰を「改めて促し、双方の考えの肌たりが改めて浮き彫りになった。
- 2019年1月：米国を除く環太平洋連携協定（TPP）参加国11か国は、19日、協定の運営を担うTPP委員会の初会合を東京都内で開いた。同委員会は、協定発効後の最高意思決定機関。国内手続きを完了し、60日たった「締約国」が正式メンバー。現時点では、メキシコ、日本、シンガポール、NZ、カナダ、オーストラリア、ベトナムの7か国が該当する。

### 3. 日米TAG交渉関連

- 2018年9月：安倍総理は26日、米国にてトランプ大統領と会談し、日米の全ての物品を対象にした日米物品貿易協定（TAG）の交渉入りに合意した。農林水産品

の関税について、共同声明では環太平洋連携協定（TPP）で合意した範囲が最大限とする日本の立場に対し、米国は尊重するとの表現となった。

2019年4月：日米貿易協定の初会合が15日からワシントンで開始された。自民党は12日、対米交渉に関する対策本部を開催し、決議を採択した。決議内容は「農林水産品の市場開放水準は、過去の経済連携協定で約束した内容が最大限」とするものであった。

米国のパーデュー農務長官らから強硬な発言が目立つが、吉川農相は「日本が一方的に農業分野の関税を引き下げることが到底ありえない」と述べた。

2019年6月：茂木敏充経済再生担当相は4日の閣議後会見で、日米貿易協定交渉の事務レベル協議を米ワシントンで10、11日に開くと発表した。農産品や自動車について実務者が集中的に議論する。農水、経済産業両省の幹部が初めて協議に出席し、具体的な品目について現行の関税率や輸出入数量などの実情を共有すると報道された。

2019年8月：自民党は20日、TPP・日EU・日米TAG等経済連携協定対策本部を開催し、ヤマ場を迎える日米貿易協定交渉への対応を協議した。出席議員からは、環太平洋連携協定（TPP）を超える農産品の市場開放を回避するよう求める意見や、期限ありきの交渉に釘を刺す声が上がった。（フランス南西部ビアリッツで24～26日に開催されるG7サミットに合わせた日米首脳会談で、合意に達するのではないかとの見通しがある）

## II 令和元年度(平成31年度)畜産酪農対策

平成31年度畜産物価格・関連対策については、①補給金及び集乳調整金の単価は、経営意欲、担い手意欲を促す価格となるよう決定すること、②交付対象数量は国内の乳製品の需給状況を考慮し適切に決定すること、③加工原料乳等生産者経営安定対策事業は継続すること、などを要請した。

結果は、補給金単価が10.80円、対象数量は340万トン、所要額は368億円（前年所要額は363億円）となった。尚、集送乳調整金は2.49円/kg、加工原料乳生産者補給金は8.31円/kgとなった。加工原料乳等生産者補給金の単価は前年度単価に、生産コスト等変動率1.0098（搾乳牛1等当たり生産費の変動率、及び乳量の変動率を勘案）を乗じて算出された。一方、集送乳調整金の単価は前年度単価に集送乳コスト等変動率を乗じて算出された。

【指定肉用子牛】	保証基準価格	合理化目標価格
乳用種	161,000円/頭（141,000円）	108,000円/頭（98,000円）
交雑種	269,000円/頭（216,000円）	212,000円/頭（158,000円）

## III 令和2年度政府農林予算2兆7307億円(対前年比118%)で決定(概算要求)

令和元年9月11日の中央委員会の議を経て要請内容を決定、特に本年度は①指定団体機能の維持、②酪農ヘルパー確保等対策、③乳用牛預託事業等対策、④自給飼料対策、⑤家畜排せつ物処理施設等対策、⑥産業獣医師確保対策、⑦自然災害対策、を重点項目とし、要請運動を継続して展開した。これらの要請活動の結果、以下の事業等が政府案として決定した。

## 主な酪農関連対策

- ・加工原料乳生産者補給金（経営安定対策） {368 億円（368）}
- ・（ICTを活用した）畜産経営体の生産性向上対策 {30 億円（30）}  
（持続的生産強化対策事業の内数）
- ・環境負荷軽減に向けた酪農経営支援対策（エコ酪事業） {63 億円（63）}  
（持続的生産強化対策事業の内数）

補正予算で措置される「畜産・酪農収益力強化整備特別対策事業」（クラスター事業）  
や

A L I C 事業で措置される「酪農経営支援総合対策事業」「堆肥舎等長命化推進事業」  
「畜産経営災害総合対策緊急支援事業」「酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事  
業」等は未定。

## IV 関東乳販連、令和元年度(平成 31 年度)飲用向け乳価を 4 円値上げで決着

平成 30 年 12 月 28 日、関東乳販連は平成 31 年度飲用向け乳価、発酵乳向け乳価について、  
1 k g 当たり 4 円引き上げることによって妥結したと発表した。なお、学乳向けは据え置き。ホクレ  
ンも 31 年 1 月 9 日、飲用向け乳価、発酵乳向け乳価、その他（業務用牛乳など）向けについ  
て 4 円引き上げることによって妥結したと発表した。なお、バター、チーズなどの加工向けなどの乳  
製品向けは据え置き。

## V 酪農家戸数 15,000 戸 (31.2/1 現在 畜産統計. 農水省 7/2 発表) ( ) 内は前年

	酪農家戸数[戸]	乳牛飼養頭数[千頭]	一戸当たり飼養頭数[頭]
全 国	15,000 (15,700) 4.5%減	1,332(1,328)0.3% 増	88.8 (84.6) 5.0%増
北海道	5,970 (6,140) 2.8%減	801 (791) 1.3%増	134.2 (128.8) 4.2%増
都府県	9,070 (9,540) 5.0%減	531 (537) 1.1%減	58.5 (56.3) 3.9%増

## VI 配合飼料価格 (配合飼料給与、3.3 t/年・頭→1 万円上がれば 33,000 円の負担増)

- 27 年 1～3 月期 2,550 円上げ。円安に加え主原料の値上がりが必要。
- 27 年 4～6 月期 750 円下げ。7～9 月期 1,800 円下げ。10～12 月期据え置き。
- 28 年 1～3 月期 700 円下げ。4～6 月期 3,700 円下げ。7～9 月期 800 円上げ。
- 28 年 10～12 月期 1,650 円下げ。
- 29 年 1～ 3 月期 1,950 円上げ。4～6 月期 700 円上げ。7～9 月期 1,100 円下げ。
- 29 年 10～12 月期 400 円下げ。30 年 1～3 月期は 1,500 円上げ。4～6 月期 1,100 円上げ。
- 30 年 7～9 月期 1,550 円上げ。10～12 月期 800 円下げ。31 年 1～3 月期は 500 円上げ。
- 31 年 4～6 月期 850 円下げ。令和 1 年 7～9 月期 400 円下げ。1 年 10～12 月期 650 円下げ。

## Ⅶ最近の酪政連活動 《主な活動、下記は一例です。》

政府・国会 その他	酪政連・関係機関
12/7(木)自由民主党畜産振興議員連盟総会が開催され、畜産・酪農をめぐる情勢等が協議され、畜産物価格に関する団体要請を受ける。	12/7(木)自由民主党畜産振興議員連盟総会が開催され、畜産・酪農をめぐる情勢等が協議され、平成31年度畜産物価格について委員長より団体要請を実施。
12/10(月)自由民主党畜産・酪農対策委員会が開催され、現地調査結果が報告され、団体要請を受ける。	12/10(月)自由民主党畜産・酪農対策委員会が開催され、委員長より団体要請を実施。
12/13(木)自由民主党、農業・食料戦略調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議が開催され、平成31年度農林関係税制改正(結果報告)、平成30年度第2次補正予算、平成31年度農林水産関係予算等について協議される。	1/15(火)酪政連事務所を(新)酪農会館に移転し、業務を開始する。
1/19(土)TPP参加国は、19日、協定の運用を担う「TPP委員会」の初会合を都内で開催し、「新たな国、地域の加入を通じて協定を拡大していく強い決意を確認した」とする共同声明を採択したと発表した。	2/5(水)1100三役会議[酪農協会会議室] 2/22(金)1300事務局長会議[参議院議員会館] 3/6(水)1100三役会議[自由民主会館] 3/6(水)1300中央委員会[自由民主会館] 3/6(水)1400通常総会[自由民主会館] 平成30年度運動報告並びに収支決算承認の件 平成31年度運動方針並びに収支予算承認の件 平成31年度会費賦課方針決定の件 監事の補欠選任の件、を原案通り可決承認する。
2/10(日)グランドプリンスホテル高輪にて、第86回自由民主党定期大会が開催される。	3/6(水)1600自民党酪政会との懇談会[自由民主会館]
4/12(金)TPP・日EU・日米TAG等経済連携協定対策本部、TPP交渉における国益を守り抜く会 合同会議:日米TAG協定について	4/19(金)1300正・副委員長会議[全酪連役員会議室] 酪農ヘルパーに関する状況について 獣医事をめぐる情勢について 糞尿処理対策の状況について畜安法改正後の状況について 他を協議
7/4(木) 第25回参議院議員通常選挙 公示	5/14(火)大槻委員長は小里農林水産副大臣に「日米物品貿易協定(TAG)に関する要請」を実施。
7/21(日)第25回参議院議員通常選挙 投開票	5/29(水)1300中央委員会 令和2年度酪農政策・予算確保に関する要請を協議。 会議終了後、東北酪政会が開催され、同様の議論がなされる。
8/20(火)自由民主党は、TPP・日EU・日米TAG等経済連携協定対策本部会合を開催。 フランス南西部ビアリッツで、開催されるG7サミット開催中に大筋合意があるのではとの憶測に関する対応を協議。	6/12(水)1230酪政会が開催され、令和2年度酪農政策・予算確保に関する要請が協議される。 会議終了後、中央委員会を開催し、改正畜安法2年目の現状について、及び軽減税率についての勉強会、議論を実施する。
9/11(水)第4次安部再改造内閣が11日発足し、農相には江藤拓・前首相補佐官が就任した。なお、副大臣には、伊東良孝氏、加藤寛治氏、政務官には、藤木しんや氏、河野義博氏が就任した。なお、自民党総務会長に鈴木俊一氏が就任した。	7/4(木) ~20日(土) 第25回参議院議員通常選挙 に関し、応援活動を実施。
10/23(水)自由民主党、農業・食料戦略調査会、農林部会、農林水産災害対策委員会合同会議が開催され、大槻委員長は台風19号被害への支援対策に関する緊急要請を行う。	9/11(水)1300中央委員会 令和2年度酪農政策・予算確保に関する要請を協議。 会議終了後、ブロック別要請活動を実施した。
10/31(木)自由民主党畜産振興議員連盟総会が開催され、畜産・酪農をめぐる情勢等が協議され、畜産物価格に関する団体要請を受ける。大槻委員長はこれに関する要請を行う。	9/26(木)1200江藤拓農林水産大臣に面会 大槻委員長は令和2年度酪農政策・予算確保に関する要請書を手渡す。
11/6(水)自由民主党、農業・食料戦略調査会、農林部会、農林水産関係団体委員会、農政推進協議会合同会議が開催され、令和2年度農林関係税制改正に関する協議がなされ、大槻委員長は税制に関する要請を行う。	10/16(水)1300正・副委員長会議[全酪連役員会議室] 令和2年度畜産物価格及び関連対策に関する要請について 令和2年度税制改正要望について 他を協議する。
	11/20(水)1200酪政会が開催され、令和2年度畜産物価格及び関連対策に関する要請についてが協議される。 会議終了後、中央委員会を開催し、令和2年度畜産物価格及び関連対策に関する要請について、協議する。



#### 4. バター、脱脂粉乳の生産・在庫状況

■ 元年9月生産量:バター3.8千トン(前年比123.0%)、脱脂粉乳7.8千トン(前年比107.7%)

■ 元年9月末在庫量:バター27.3千トン(前年比109.0%)《4.2か月》、脱脂粉乳67.9千トン(前年比110.5%)《6.0か月》

(参考:30年度年間出回り量月平均、バター6.5千トン、脱粉11.4千トン)

	バター生産		脱脂粉乳	
	数量	増減率	数量	増減率
26年度	61,649	95.87%	120,921	93.87%
27年度	66,299	107.54%	130,187	107.66%
28年度	63,583	95.90%	123,500	94.86%
29年度	60,087	94.50%	121,583	98.45%
30年度	59,827	99.57%	120,064	98.75%
30.10.	3,760	90.17%	7,811	87.60%
11	3,748	93.96%	8,584	95.36%
12	5,460	103.11%	12,592	102.02%
1	6,110	103.32%	10,984	95.79%
2	4,953	98.48%	9,720	100.55%
3	6,448	101.86%	12,762	103.98%
31.4	6,071	101.42%	12,226	104.80%
5	5,974	102.93%	11,591	104.93%
6	4,999	103.66%	9,749	103.81%
7	5,465	116.60%	10,439	120.68%
8	4,721	95.72%	9,099	94.97%
9	3,833	122.97%	7,837	107.68%
令和1.4-9	31,064	103.57%	60,941	104.81%

#### 5. 生乳・生産物・配合飼料価格の推移(前年同月比)

	総合乳価 [円/10kg]		乳廃牛 [円/生体1kg]		子牛(千円/頭)						乳用牛配合飼料 (千円/ばら1トン)	
	数量	増減率	数量	増減率	ホルオス		交雑種		ホルメス		数量	増減率
23年度	893	100.10%	171	109.60%	37.5	111.30%	117.1	92.40%	203.2	110.30%	62.9	106.10%
24年度	903	101.12%	152	88.89%	32.4	86.40%	103.4	88.30%	220.4	108.46%	62.9	100.00%
25年度	910	100.78%	205	134.87%	46.5	143.52%	143.2	138.49%	217.2	98.55%	70.6	112.24%
30.10.	1,058	100.47%	241.9	95.24%	120.4	118.62%	246.2	113.98%	425.6	91.74%	70.8	105.58%
11	1,055	100.57%	248.3	95.72%	123.1	107.98%	241.5	113.97%	386.0	84.08%	70.7	105.27%
12	1,044	100.10%	262.2	106.89%	116.8	97.82%	245.4	113.35%	391.9	86.68%	70.7	105.27%
31.1	1,023	100.49%	264.0	105.98%	103.6	89.31%	235.6	110.77%	425.7	101.16%	70.4	102.13%
2	1,025	100.99%	264.8	109.88%	109.3	84.14%	247.5	114.32%	443.7	102.85%	70.4	102.25%
3	1,027	100.59%	286.2	116.06%	130.7	87.84%	274.5	117.31%	445.3	99.38%	70.4	102.25%
4	1,015	100.79%	322.1	123.93%	141.1	89.53%	295.8	118.32%	432.5	88.94%	69.6	99.37%
5	1,040	102.97%	318.1	113.65%	134.6	88.44%	313.3	121.72%	415.2	94.36%	69.6	99.33%
6	1,042	102.16%	320.1	108.80%	134.5	92.69%	299.7	110.84%	374.0	82.11%	69.6	99.30%
7	1,054	103.33%	326.9	122.76%	135.4	102.42%	305.4	114.98%	366.7	80.54%	69.4	97.28%
8	1,056	101.64%	311.1	131.49%	115.0	95.67%	276.0	106.85%	349.1	81.20%	69.4	97.25%
9	1,064	102.80%	307.8	131.03%	113.0	104.53%	249.9	105.76%	333.8	78.25%	69.4	97.20%

資料:農林水産省「農業物価統計」

注:1.平成8年度以降の総合乳価平均価格は牛乳製品課推計。

2.乳廃牛価格は、中央卸売市場の乳用メス(乳用種)枝肉C1の平均価格であり、年度平均は各月の単純平均。

3.乳子牛価格について、ホルオスは生後7~10日、ホルメスは生後6カ月程度。F1オスについては、道内11市場における加重平均。

4.配合飼料価格は、小売店頭等での購入価格。

5.( )内は年度平均価格については対前年度比、月平均価格については対前年同月比。

## II 牛肉、子牛価格の動向

(1) 9月推定出回り量76.2千トン(前年比97.7%)、推定期末在庫130.894トン(前年比106.7%)

年度月	生産量		輸入量		国内生産量の割合	推定出回り量					
						合計		うち輸入量		うち国産品	
28	324,257	97.55%	525,694	107.92%	38.15%	861,099	104.58%	538,565	108.77%	322,534	98.25%
29	329,730	101.69%	571,854	108.78%	36.57%	903,841	104.96%	575,804	106.91%	328,037	101.71%
30	332,857	100.95%	619,686	108.36%	31.66%	930,371	102.94%	600,550	104.30%	329,821	100.54%
30.10.	28,779	101.74%	51,421	118.71%	35.88%	79,347	110.00%	50,777	118.55%	28,570	97.50%
11	34,325	104.06%	51,685	124.38%	39.91%	83,108	110.64%	50,085	116.70%	33,023	102.57%
12	30,829	96.39%	47,612	101.32%	39.30%	83,977	99.06%	52,962	99.51%	31,015	98.29%
31.1	24,868	99.15%	50,565	141.85%	32.97%	72,814	112.04%	47,582	119.95%	25,232	99.65%
2	24,875	101.44%	40,106	107.81%	38.28%	64,721	100.73%	40,043	100.18%	24,678	101.64%
3	26,378	99.89%	39,248	87.49%	40.19%	71,357	92.16%	45,007	88.37%	26,350	99.45%
4	29,292	101.80%	67,276	108.32%	30.33%	94,950	105.86%	66,686	109.83%	28,264	97.54%
5	25,719	97.39%	48,563	89.71%	34.62%	71,450	95.88%	45,356	94.30%	26,094	98.76%
6	25,309	96.13%	47,284	99.93%	34.86%	67,883	95.60%	43,638	96.98%	24,245	93.20%
7	30,506	101.49%	62,531	95.47%	32.79%	84,957	98.51%	53,960	95.58%	30,997	104.06%
8	24,602	95.43%	53,557	92.77%	31.48%	79,879	105.65%	55,938	111.62%	23,941	93.91%
9	26,144	102.71%	50,534	96.71%	34.10%	76,157	97.67%	50,389	93.81%	25,768	106.22%
令和4-9	161,572	99.24%	329,745	97.26%	32.89%	475,276	100.05%	315,967	100.60%	159,309	98.98%

(2) 乳子牛(ホルスタイン)価格の推移 <農水省農業物価指数>

[単位:円/頭(前年同月比%)]

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
29	81,570	94,520	105,100	112,600	116,900	130,000	118,600	102,200	93,120	101,500	114,000	119,400	107,459
	76.74%	86.48%	96.96%	98.95%	92.63%	101.17%	99.58%	102.32%	106.31%	115.85%	121.35%	133.78%	101.55%
30	116,000	129,900	148,800	157,600	152,200	145,100	132,200	120,200	108,100	120,400	123,100	116,800	130,867
	142.21%	137.43%	141.58%	139.96%	130.20%	111.62%	111.47%	117.61%	116.09%	118.62%	107.98%	97.82%	121.78%
31	103,600	109,300	130,700	141,100	134,600	134,500	135,400	115,000	103,000				123,022
	89.31%	84.14%	87.84%	89.53%	88.44%	92.69%	102.42%	95.67%	95.28%	0.00%	0.00%	0.00%	94.01%

■肉用子牛基金：29年度→乳用種＝保証基準価格136,000円、合理化目標価格93,000円、交雑種＝同210,000円、同152,000円。30年度→乳用種＝保証基準価格141,000円、合理化目標価格98,000円、交雑種＝同216,000円、同158,000円。31年度→乳用種＝保証基準価格161,000円、合理化目標価格108,000円、交雑種＝同269,000円、同212,000円。但し、令和元年度10月からの消費税増税(8→10)に伴い、乳用種＝保証基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種＝同274,000円、同216,000円へ期中改定。

補給金交付単価は、24第1四半期：乳用種34,350円、第2四半期：乳用種24,100円、第3四半期：乳用種18,200円、第4四半期：乳用種10,600円、

25年度、26年度、27年度、28年度、共に全期間補填実績なし

29年度、第1四半期乳用種0円、第2四半期：乳用種0円、第3四半期：乳用種0円、第4四半期：乳用種0円。

30年度、第1四半期乳用種0円、第2四半期：乳用種0円、第3四半期：乳用種0円、第4四半期：乳用種0円。

31年度、第1四半期乳用種0円、第2四半期：乳用種0円。

## III 飼料等の動向

・配合飼料価格：令和元年10～12月はトン650円値下げ(全農)。原料のシカゴ相場が下落したことなどから、値下げとなった。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
29	67,510	67,570	67,580	67,780	67,760	68,440	67,630	67,420	67,370	67,060	67,170	67,170
	95.16%	95.25%	95.53%	100.49%	100.55%	101.56%	98.73%	98.41%	98.35%	99.64%	99.66%	99.60%
30	68,910	68,810	68,840	70,060	70,110	71,340	71,370	71,370	71,420	70,800	70,710	70,700
	102.07%	101.84%	101.86%	103.36%	103.47%	104.24%	105.53%	105.86%	106.01%	105.58%	105.27%	105.26%
31	70,380	70,350	70,400	69,620	69,590	69,620	69,440	69,410	69,420			
	102.13%	102.24%	102.27%	99.37%	99.26%	97.59%	97.30%	97.25%	97.20%	0.00%	0.00%	0.00%

■配合飼料販売価格の改定幅と補填の実施状況

[単位:円/トン(補填交付金)]

	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
28	▲700(0)	▲3,700(0)	800(0)	▲1,650(0)
29	1,950(950)	700(1,700)	▲1,100(400)	▲400(0)
30	1,500(0)	1,100(300)	1,550(3,450)	▲800(2,300)
令和1(31)	500(300)	850(0)	▲400(未定)	▲650(未定)

## ■米国産穀物の今年度需給見通し（米国農務省11月8日発表）

<期末在庫>大豆は、前月に比べ、生産は減少、需要は微減のため、在庫予想は減少となった。小麦は、前月に比べ、生産は減少、需要も減少のため、在庫予想は横ばいとなった。とうもろこしは、前月に比べ、生産は減少、需要も減少のため、在庫予想は横ばいとなった。

\* 大豆……………前月に比べ、生産は減少、需要は微減のため、在庫予想は減少となった。（前年比52%）

\* 小麦……………前月に比べ、生産は横ばい、需要も横ばいのため、在庫予想も横ばいとなった。（前年比94%）

\* トウモロコシ……前月に比べ、生産は減少、需要も減少のため、在庫予想は横ばいとなった。（前年比90%）

### <需 給>

生 産 9,662万トン  
大 豆 需 要 1億 909万トン  
(9/1~8/31) 在庫率11.8% 期末在庫1,292万トン(前年比52%)

生 産 5,226万トン  
小 麦 需 要 5,732万トン  
(6/1~5/31) 在庫率 48.1% 期末在庫2,759万トン(前年比93.9%)

生 産 3億4,701万トン  
トウモロコシ 需 要 3億5,346万トン  
(9/1~8/31) 在庫率 13.7% 期末在庫5,562万トン(前年比90.4%)

## ■シカゴ相場〔ドル/ブッシェル〕

## ■為替相場〔東京・銀行間直物中心、円/ドル〕

	トウモロコシ	大豆	小麦	対ドル	円相場
12年	6.95	14.66	7.51	12年	82.89
13年	5.78	14.07	6.84	13年	100.16
15年	3.77	9.45	5.07	15年	120.13
2018年10月5日	3.70	8.70	5.20	10月11日	113.36
11月2日	3.70	8.80	5.10	11月20日	113.67
12月7日	3.70	9.20	5.20	12月13日	114.42
2019年1月4日	3.80	9.10	5.20	2019年1月10日	108.15
2019年2月1日	3.80	9.20	5.20	2019年2月14日	111.98
2019年3月1日	3.60	9.00	4.50	2019年3月15日	112.94
2019年4月5日	3.60	9.00	4.70	2019年4月9日	112.42
2019年5月3日	3.60	8.30	4.30	2019年5月20日	111.17
2019年6月7日	4.20	8.60	5.00	2019年6月17日	108.55
2019年7月5日	4.30	8.70	5.20	2019年7月17日	109.32
2019年8月2日	4.00	8.50	4.90	2019年8月19日	107.41
2019年9月6日	3.40	8.50	4.60	2019年9月17日	109.20
2019年10月4日	3.80	9.20	4.90	2019年10月16日	109.74
2019年11月1日	3.90	9.20	5.20	2019年11月25日	109.81

## ■海上運賃〔米ガルフ→日本、穀物、パナマックス(5~8万トン級)、ドル/トン〕

【20年度93.37 21年度70.26 22年度61.23 23年度51.57 24年度45.75】

29年1月平均=35.44 2月平均=36.51 3月平均=38.71 4月平均=40.51 5月平均=36.90 6月平均=38.28 7月平均=39.78 9月平均=41.56 10月平均=43.10 11月平均=44.37 12月平均=45.21 30年1月平均=45.52 2月平均=43.95 3月平均=46.81 4月平均=45.81 5月平均=45.31 6月平均=47.11 7月平均=49.36 8月平均=48.85 9月平均=49.83 10月平均=52.45 11月平均=49.77 12月平均=49.59 1月平均=43.55 2月平均=39.05 3月平均=43.90 4月平均=47.02 5月平均=47.38 6月平均=44.41 7月平均=54.11 8月平均=55.69 9月平均=57.94 10月平均=53.18 11月平均=48.87